

鹿児島県沖永良部島
「移住者10人の声」

VOICE

vol.2





**町田 一真さん(33) 2016年東京都からUターン
家族構成：妻・子ども3人 / 職業：飲食店経営**

「暮らすのはここじゃないかな」と感じながら東京で日々を送っていたのですが、島出身の彼女との結婚をきっかけに帰ってきました。東京で飲食店に勤めていたので、その経験を活かして28歳までに飲食業で独立するという目標を立てました。帰ってからしばらくはホテルで働いていたのですが、人づてにテナント入居者募集の話を聞きチャレンジしてみることにしました。先輩が商工会の方を紹介してくれて、商工会会員になり事業計画を作成し、開店資金の借入ができました。開業の知識が皆無の自分にとって、先輩方からのサポートはありがたかったです。28歳と数カ月でオープン、店の雰囲気や味など、都会では当たり前のサービスを島で提供したいという想いを持ってスタートしました。2年前に株式会社を設立、今年3月には2店舗目の居酒屋もオープンしました。現在は、飲食店・レンタカー・美容・フルーツパイヤの農業の4事業をやっています。従業員はアルバイトを含めて20人、年代は20、30代の島出身者が多く、気心が知れているのでコミュニケーションが取りやすいです。

**太 悠子さん(46) 2019年東京都からIターン
家族構成：夫・子ども2人 / 職業：主婦(子育て中)**

40歳になり「何か変化を起こすなら今だ!」と思い、単身で島に移住したのですが、地元の男性と出会い結婚、さらになんと双子を妊娠!と夢みtainことが起こりました。そんな喜びの一方で、高齢出産で双子とリスクが高く、出産は実家のある東京でしました。島では緊急対応が難しいので…。子育てしやすい島ですが、妊娠から出産までのハードルは高いと感じました。子だくさんというイメージの島でも少子化が進み、去年生まれたのは22人と少人数で、ならば一層のこと同年代で知り合いになれたらいいかと、親子で交流できるイベント「ハイハイレース」を先日開催してみました。大人を含め30人位集まってくれて、自分の子どもだけでなく、お互いの子どもを応援する和やかな雰囲気でもうできました。こんな風に同世代でつながりやすいのは、島ならではの良さだと思います。子どもの数が少ないからこそ、つながりを作って、子どもの成長に合わせてイベントを開催していけたらと思います。自分たちが楽しいと思うことを企画して行きたいです。次は「手押し車レース」をやりたいと思っています。



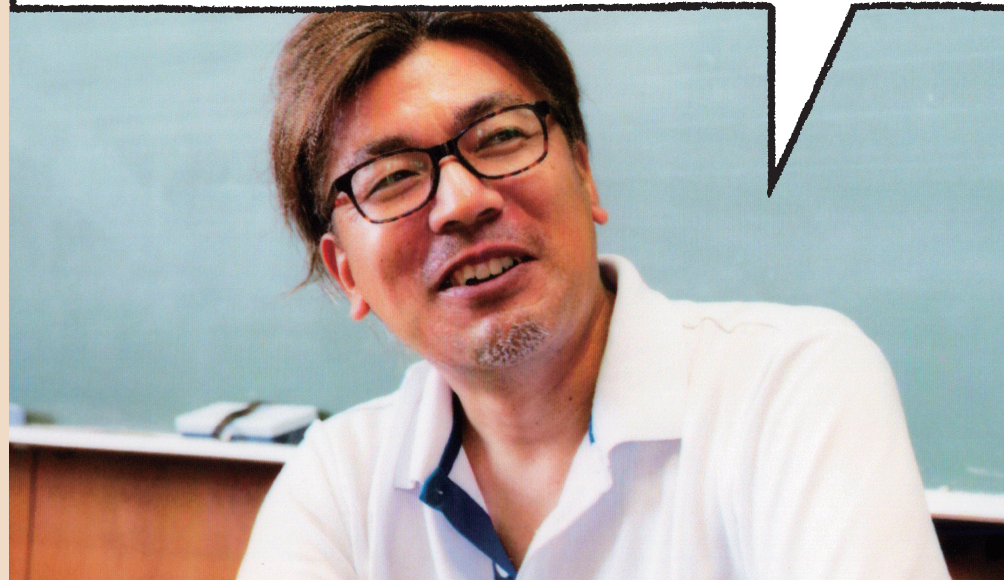


**アイテン・アルペルさん(53) 2019年大阪府からIターン
家族構成：妻 / 職業：トルコ料理店主**

南の島で自分らしく生きていけたらと、10年続けてきた店を閉めて島に移住しました。生きていく上で絶対に必要な「水」について調べていたら、沖永良部島の湧き水スポットマップを見つけたんです。さらにタイミングよく、移住体験住宅の入居者募集をしていて、水に呼ばれるように移住してきました！移住体験住宅は家電が付いていて、本格移住前のいい入り口でした。季節・景色・人・仕事・商売など色々と知りたかったのが、1年という長期間はありがたくて、知り合いもたくさんできました。移住体験住宅の期間終了後、一旦母国のトルコに戻ったのですが、島の人たちの優しさに惹かれて島に帰って来ました。4カ月後にトルコ料理店をオープン。店舗兼住宅は、移住体験時に家主と知り合っていたので、スムーズに借りることができました。将来の夢は果樹園。家の裏にタマリンド・ジャックフルーツなどの苗を植えていて、気候が近い国で作られている果物の種苗を取り寄せて島で育つのか実験中です。無農薬でフルーツを作って実ったら、島内で昔のような物々交換をしたいです。

**上村 昌範さん(41) 2022年大阪府からRターン
家族構成：妻・子ども1人 / 職業：地域おこし協力隊**

祖父母が住んでいたのも、小さい頃の夏休みは沖永良部で過ごすのが恒例でした。2015年に祖母が亡くなって、それをきっかけに、家族孝行せずに自由気ままに生きてた自分の人生の転換を考えていました。そんな中、祖父の具合も悪くなり、様子を見に妻と島に来た時に地域おこし協力隊の募集を知ったんです。小中学校でICT機器を活かした授業を先生と一緒にやるというミッションで、自分の経験やスキルを活かせると思い、すぐに応募して運よく採用されました。子どもが生まれたばかりで、田舎で子育てしたいと思っていたのもあって本当によかったです。祖父が大切にしていた畑の管理を自分が担えたらというのもありました。協力隊卒業までもうあと半年、卒業後の進路をいくつか考えています。その一つがプログラミング教室の開業です。協力隊起業支援事業を活用したいと思っています。子どもはもちろん、大人も参加できるIT教育のコミュニティづくりをしたいです。ITを軸に教育だけでなく、観光・サービス業・農業などでも可能性を拡げて行けたらなと思っています。





**新納 佳恵さん(37) 2010年東京都からIターン
家族構成：子ども2人 / 職業：子ども支援施設責任者**

若い時のノリで14年前に島に来ました(笑)。半年の予定が、豊かな自然と人との距離感が心地よく、そのまま移住し、結婚して出産しました。子育てをしてみると「子どもと過ごす場所が少ない」「子育ての大なり小なりの悩みや疑問を共有する場がない」と感じて、同じことを思っていた方々と手探りで子ども支援施設を始めることにしました。物件が見つかり3、4人で始めたDIYも最終的には30人位が手伝ってくれて開所まで漕ぎ着けました。子どもの成長とともに「もっとのびのび遊べる場所」「小学生が勉強できる場所」などのニーズが出てきたので、その声に応えるためにクラウドファンディングや日本財団の助成事業にも挑戦して、施設の整備をしています。この場所があることによってお互いの悩みをさらけ出して皆で話し合っ解決でき、私自身も成長できていると実感しています。島の方は穏やかで他人を受け入れる力が凄く、それは生きていく上でとても大事なことで、島では自然にそれが身につく気がします。私も14年間の島暮らしで顔つきも変わり、性格が穏やかになったと思います。

**要 秀人さん(42) 2015年兵庫県からRターン
家族構成：妻 / 職業：牛飼い**

東日本大震災で物流が止まった時に、食べ物を作る力があれば人として強いと思い、祖父母が余生を過ごしていた島に移住して、農家のお手伝いから始めました。1年ほどして、SNSで知り合った畜産農家から「1週間手伝ってくれない」と声が掛かり、そこから4年位その方の下でノウハウを学び、牛飼いとして独立しました。「牛飼い」が島に昔からあるこの職業の言い方かなと思って使っています(笑)。牛舎用の土地が見つからず困っていたところ、集落の副区長さんが「自分の土地を使って」と譲ってくれました。集落活動を通じてできた信頼関係があっこそだと思います。牛飼いとは別に、元バンドマンの経験を生かして、作曲・プロデュース・イベント音響などの音楽関係の仕事もやっています。最近は新人アーティストのプロデュースに力を入れていて、年内にミニアルバムをリリースしたいと思ってます!どこでも情報配信ができる時代だから牛飼いと音楽が両立できるているのかなと思います。どちらも仕事というよりも生活の一部という感覚なので、ストレスはほとんど感じていません。





**並木 建吾さん(47) 2019年東京都からIターン
家族構成：妻 / 職業：グラフィックデザイナー**

島暮らしに憧れがあり、夏季休暇を使って、大学時代の友人がいる沖永良部島で1週間過ごしてみました。その時すでに、島へ移住するイメージを膨らませていたような気がします。東京に戻り、本格的に沖永良部のことを調べると、3カ月後に移住体験ツアーがあることを知って、シミュレーションのつもりで参加しました。我慢できないことや移住者を受け入れない雰囲気がないかチェックしようと思っていたのですが、取り越し苦労でした(笑)。タイミングよくデザインをミッションにした地域おこし協力隊の募集があり、応募して協力隊に着任しました。「着任した方がいいがデザインの依頼がなかったらどうしよう」と心配でしたが、イベントポスターや広報誌などたくさんの依頼があって、嬉しい忙しさでした。協力隊として働いたことで、多方面に知り合いができたことは大きな収穫でした。協力隊卒業後も島でデザイン業をしています。商品パッケージやロゴなど、島内の事業者さんからの依頼も徐々に増えてきました。移住前と比べると、のびのびとしたデザインができている感じがします。

**伊集院 香葉子さん(24) 2021年高知県からRターン
家族構成：両親 / 職業：役場職員**

生まれは熊本県なのですが、転勤族だったので地元らしい地元もなく、就職はどの土地に行ってもいいかなと思っていました。色々な場所での就職を検討していた頃に、5年前に移住した母親から「島の役場職員という選択肢もあるんじゃない？」と言われ、島で両親と暮らしながら働くのもありかなと思ったんです。子どもの頃から両親と帰省していて、島の魅力を感じていましたし、町おこしや観光に興味があったので、住んだことがない人の視点で島の良さを伝えることができるのではないかと思い、和泊町役場への就職にチャレンジしました。猛勉強して無事新卒採用され、私も島に移住しました。採用後は広報と有線テレビの加入対応を主に担当しています。役場の経験どころか社会人の経験もなかったので、電話対応のやり方すらわからなかったのですが、先輩の対応を見聞きしながらイレギュラーな事案などもなんとかこなしています。心がけていることは聴く姿勢を意識すること、相手の意図をちゃんと受けとめて対応するようにしています。





和田 愛さん(37) 2020年東京都からUターン

家族構成：夫・子ども1人

職業：特定地域づくり事業協同組合職員 介護職員

東京で子育てをしながら仕事を続けるのは無理だと思い、島に帰ってきました。一番の不安は仕事でした。新しく設立された事業協同組合で職員を募集していると聞き、応募しました。「介護の仕事はとうですか？」と面接で聞かれ、仕事を決めなければという一心で「未経験ですがやります！」と答えていました。生活が懸かっているので必死です。受かった時は、ほっとしましたね。最初に働いたグループホームでは、少人数の利用者と密接に関わりました。お風呂の介助など技術的なことを1週間くらい丁寧に教えてもらい、後はやりながら習得しました。次に働いたデイケアサービスは、毎日顔ぶれが変わるので利用者によって対応が違い、日々学ぶことばかりです。利用者の方々が自分の孫のように接してくれるので、私も自分の祖父母への感覚で接してます。未経験で飛び込んだ介護の仕事ですが自分に合っていると思います。事業協同組合は、休暇を取りやすく福利厚生がしっかりしていて安心して働けるのでとてもありがたいです。

金城 真幸さん(55) 2017年神奈川県からIターン

家族構成：単身

職業：特定地域づくり事業協同組合事務局長

地域おこし協力隊で地域活性化というミッションの元3年間活動した結果、島の一番の課題だと思ったのが人手不足でした。協力隊卒業後は島の人手不足解決に取り組もうと決意しました。そんな中、特定地域事業制度が施行されるという情報を耳にしたんです。何もわからない状況だったので、いろいろ調べて両町の役場職員に相談して、1年間かけて組合の設立に向けての協議を重ね、事業が開始されました。順調に進んだのは、協力隊時代に農家さんや事業所さんと知り合えていたからだと思います。外から来た人を歓迎する島の文化にも救われました。事業の柱は、労働者派遣事業・有料職業紹介事業・移住支援です。全国に100以上ある組合と連携しながら、課題に取り組み成功モデルをシェアして、地方を盛り上げていきたいです。地方から新しいライフスタイルを作っていけたらと思います。ライフスタイルの軸は心の豊さです。今後も「心豊かな生活」に向かって、自分自身が島でできることを実現できたらと思います。



沖永良部島は

鹿児島市から南へ約540km、

沖縄県のほど近くに浮かぶ南の島です。

人口は1万3千人くらい。

「和泊町」と「知名町」の2つの自治体で
構成されています。

年間平均気温約22度という温暖な気候を

活かした農業がとても盛んで、

農業生産額は鹿児島県内でも上位に
位置しています。

奄美諸島の中でもハブが

いない島として知られています。

沖永良部島



沖縄



鹿児島

種子島



屋久島



喜界島

奄美大島

徳之島

鹿児島県 沖永良部島
和泊町 移住情報サイト

くらすわどまり

Kurasu-Wadomari

